

2026（令和8）年に迎える
史跡指定50周年、史跡公園開園25周年にリニューアルをめざす

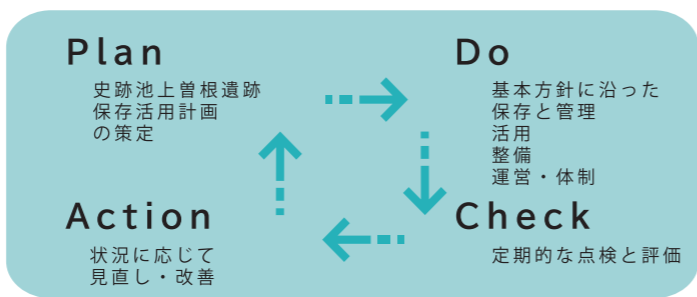
史跡池上曾根遺跡保存活用計画の計画期間

年	前期					後期					2031
	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
史跡指定45周年 史跡公園開園20周年					計画の 検証	史跡指定50周年 史跡公園開園25周年				計画の 見直し	史跡指定55周年 史跡公園開園30周年
保存	■発掘調査の実施 ■調査成果の研究と報告 ■史跡の公有地化										
活用	■周年イベント ■小・中学校の来訪促進事業の実施 ■親子イベント・講座の実施 ■民間事業者などが開催するイベントとのコラボレーション						■周年イベント ■生涯学習の場としての活用 ■防災公園としての活用				■周年イベント
整備	再整備計画策定 ■弥生情報館大規模改修 ■復元施設修繕 ■弥生学習館大規模改修 ■基本設計の見直し ■見直しに沿った整備 ■第2期整備エリアの整備 ■史跡にアクセスするための案内板などの設置 ■デジタルツール活用のための整備					史跡公園 リニューアル オープン	復元施設等の定期点検の実施				■第3期整備エリアの整備
運営	■大阪府・和泉市・泉大津市の定期的な協議の場を設定 ■発掘調査の体制を構築 ■関係部局・機関との関係強化 ■地域との関係強化 ■指定管理者制度など導入の検討 ■導入のための調査							■指定管理者制度などの導入			

経過観察

総合的な評価判断を行い
事業の見直しや改善を実施

PDCAサイクルによる検証を実施し、
史跡池上曾根遺跡の保存活用を進め
ていきます。



和泉市教育委員会
生涯学習部文化遺産活用課
〒594-8501
大阪府和泉市府中町二丁目7番5号
TEL0725-41-1551（代表）

泉大津市教育委員会
教育部生涯学習課
〒595-8686
大阪府泉大津市東雲町9番12号
TEL0725-33-1131（代表）



2021（令和3）年3月発行

史跡池上曾根遺跡保存活用計画

概要版



和泉市教育委員会 / 泉大津市教育委員会

史跡池上曾根遺跡の概要

池上曾根遺跡の成立と展開

集落の成立

弥生時代前期中頃～後半（紀元前5～4世紀ころ）
南北250m、東西180mの環濠を巡らせた地域に人びとが暮らしはじめます。

地域の中心的集落

弥生時代中期前半（紀元前4～3世紀ころ）
南北310m、東西300m以上の環濠を掘削し、7万㎡以上に広がる環濠内で人びとが生活しています。環濠を掘削するための人員とそれを統率する力を備えた集落であることがわかります。

集落の最盛期

弥生時代中期後半（紀元前2～1世紀ころ）
環濠が二重に巡る集落となります。集落の中心部には弥生時代最大級の大型掘立柱建物、大型割り抜き井戸がつくられ、周辺集落のシンボルであったと考えられます。

集落の縮小と解体

弥生時代後期（紀元1～2世紀ころ）
これまでの大規模集落の姿を失い、少数の家族単位のみとなり散在する状態に様相を変えます。



発掘された大型掘立柱建物と大型割り抜き井戸



復元された大型掘立柱建物と大型割り抜き井戸

これまでの整備状況

20年にわたり整備を実施

1989（平成元年）年 整備計画基本構想策定
1990（平成2）年 史跡池上曾根遺跡整備基本計画策定

整備事業 第1期

1995（平成7）～2000（平成12）年度
約3.5haに弥生時代の生活空間を再現し、
管理施設・体験施設を建設
2001（平成13）年5月 池上曾根史跡公園として開園

整備事業 第2期

2008（平成20）～2010（平成22）年度
整備予定エリアの一部（約8,000㎡）に多目的の広場を造成

弥生時代を通じて営まれた全国有数の大規模環濠集落

ココが
スゴイ!

1 環濠が二重に巡る大規模な集落

二重の環濠で南北450m以上、東西320m以上を囲む複合的な構造の環濠集落です。この規模は、当時の列島で最大級の集落でした。

ココが
スゴイ!

3 祭祀、生産、生活の場を 意識した集落の空間構成

最盛期となる弥生時代中期には、集落内の空間を「祭祀域」・「生産域」・「居住域」・「墓域」などの役割で使い分けていることがわかっています。

ココが
スゴイ!

5 いまなお地下に眠る、 多くの遺構、遺物

これまで発掘調査されたのは、史跡範囲のわずか25%程にすぎません。今なお多くの重要な遺構・遺物が地下に眠っており、今後の調査等で新たな発見がなされる可能性が高い、貴重な遺跡です。

ココが
スゴイ!

2 集落中心に位置する 大型掘立柱建物と大型割り抜き井戸

池上曽根弥生集落の希少性と特殊性を端的に示す遺構が、集落の中心に存在します。このシンボリックな建物は、集落の中心であるだけでなく、周辺地域の中心でもありました。

ココが
スゴイ!

4 活発な生産活動と流通拠点

土器や石器、木製品、動物等遺骸等、多種多様な遺物が豊富に出土しました。その遺物の特徴から、他地域との活発な交流と生産活動が行われていたことがわかります。

ココが
スゴイ!

6 弥生時代研究における 画期的な成果

1990年代におこなわれた発掘調査は、マスコミに大きく取り上げられ、弥生時代の年代論や弥生都市論など、世論も巻き込む考古学ブームを生み出しました。この結果、弥生時代の集落研究に大きく寄与しました。

保存管理

未来へ確実に継承していくために 適切な保存管理と調査研究に取り組む

史跡池上曽根遺跡の本質的価値を確実に将来に守り伝えるため、保存管理の方法、現状変更行為の取り扱い、追加指定および公有化の方向性を示しました。

発掘調査および研究の方針として、史跡地内の発掘調査を継続的に実施するとともに過去の調査の成果を再整理し、その結果を定期的に情報発信していきます。

活用

市街地にある史跡という利点を生かし 地域の誇りと魅力を育む活用をめざす

史跡池上曽根遺跡の魅力を広く伝えていくため、人びとの学びの場としての活用のほか、地域活動の場としての活用を進めていきます。また、観光資源としての活用を進めるため、和泉市、泉大津市の他の文化財や、近隣市の文化財とも連携した活用を検討していきます。

整備

既存の整備を生かしながら市街化が進む 周辺環境と調和した史跡公園となるよう整備を進める

史跡池上曽根遺跡を確実に保存することを第一とし、整備を行います。また、これまでに出土した遺物を一体的に保存・管理し、調査研究する体制の整備を検討します。

第1期整備エリアについて再整備計画を策定し、弥生情報館・弥生学習館・復元施設などの再整備を実施するほか、情報発信のための整備を進めていきます。また、第2期整備エリアの整備をすすめ、植栽やレストスペースの設置の検討により、長時間滞在できる史跡公園をめざします。

運営と体制

池上曽根遺跡に関わる行政機関と地域との連携を さらに深めた運営と体制の構築をめざす

和泉市教育委員会・泉大津市教育委員会が中心となり、関係部局・関係機関・地域等が連携しながら池上曽根遺跡の保存と活用および整備を進めていきます。

計画の範囲

池上曽根遺跡と関連施設

基本理念・基本方針

弥生時代の大いなる営みの記憶を伝え
人びとが集う、憩う、学ぶ、そして育つ 池上曽根遺跡

